総務教育常任委員会資料

（平成２２年８月２０日）

【件　名】

1　韓国江原道教育庁との教育交流について（教育総務課）…… 1

2　第１回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について
（教育環境課・文化財課）…… 4

3　公立学校施設の耐震改修状況調査の結果について（教育環境課）…… 6

4　平成２２年度全国学力・学習状況調査結果　鳥取県の概要について
（小中学校課）…… 7

5　平成２１年度全国小・中学校不登校児童生徒の状況について（小中学校課）…… １２

6　平成２１年度鳥取県立高等学校不登校生徒の状況について（高等学校課）…… １５

7　平成２１年度鳥取県立高等学校中途退学者の状況について（高等学校課）…… １８

8　第３４回全国高等学校総合文化祭宮崎大会の結果について（高等学校課）…… ２１

9　文化財の県指定について（文化財課）…… ２２

10　鳥取市・本高１４号墳の保存について（文化財課）…… ２７

教育委員会

韓国江原道教育庁との教育交流について

平成２２年８月２０日
教　育　総　務　課

平成２０年７月以来、鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流事業は中断していましたが、本年７月に就任された閔丙熹（ミンビョンヒ）江原道教育監より書簡（別紙）が届き、交流再開に向けた意見交換会開催についての打診がありました。

今後、実務者レベルで同道教育庁と調整を行っていく予定です。

《参考：平成２２年度に当初予算措置している韓国江原道教育庁との教育交流事業》

事業名（担当課）	内　　容
江原道教育庁との教育交流事業（教育総務課）	相互訪問し、鳥取県・江原道教育交流事業を実施
韓国江原道との教員交流事業（小中学校課）	教職員同士が相互交流し、教育問題等の情報交換を実施
韓国江原道との児童生徒交流事業（小中学校課）	児童生徒が相互交流し、相互理解と友好を深め、国際感覚を涵養
日韓家庭・地域教育交流事業（家庭・地域教育課）	保護者等が相互交流し、家庭や地域が抱える根幹的な諸課題を協議
鳥取県・江原道生涯スポーツ交流事業（スポーツ振興課）	県民スポーツ・レクリエーション祭に江原道の選手団を受入れ

鳥取県教育委員会
教育長　　横濵　純一 様

民選初代江原道教育監の閔丙熹でございます。まず、当選の際、お祝い文書を送ってくださいました横濵教育長様に深く感謝申し上げます。

江原道教育庁は、「みんなのための教育」を江原教育の未来像として設定し、「幸せな学校、共にする江原教育」を果たしていきたいと思っております。学校では学生に対し「競争」よりは「協力」の精神を学ぶようにし、お互いが助け合い、共存する共同体の一員になるための教育をしなければならないということが私の教育哲学でございます。

北東アジアの国際関係においても日本と韓国は消耗的な競争や葛藤の状態から脱し、両国民の共同の幸せな未来を目指して共に進めて行かなければならないと思っております。

鳥取県教育委員会と江原道教育庁の教育交流は、1995 年、姉妹結縁協定を結んでから活発に進んできたものの、大韓民国の領土である独島(日本名：竹島)に対する日本政府の領有権主張により、2005 年と 2008 年、二回も中断されました。

私は江原道の教育監として、両県・道の教育交流が再開され、両国の学生や教育関係者が相互尊重と共存の土台をしっかりと固めていくことを願っております。しかしながら、今後、鳥取県の地方政府及び議会におかれては両国間の領土問題に関与しないという前提があってこそ、中断のない真の友好教育交流が可能であると存じます。

両県・道の教育発展や協力のため、横濵教育長様と共に真率に意見交換できる機会が近々設けられることを望んでおります。

教育長様のご健勝と鳥取県教育委員会の益々のご発展を祈願致します。

2010 年 8 月 5 日
江原道教育庁
教育監　　閔丙熹

일본국 돗토리현교육위원회 요코하마 준이치(横濱純一) 교육장님 귀하

민선초대 강원도교육감 민병희입니다. 당선축하 서신을 보내 주신 교육장님께 우선 감사 말씀 드립니다.

강원도교육청은 강원교육의 미래상을 "모두를 위한 교육"으로 설정하고 "행복한 학교, 함께하는 강원교육"을 이루어 가고자 합니다. 학교에서는 학생들에게 "경쟁"보다는 "협력"의 정신을 배우도록 하여, 서로 돕고 상생하는 공동체의 일원이 되도록 교육해야 한다는 것이 저의 교육철학입니다.

동북아시아 국제관계에 있어서도 한국과 일본은 소모적인 경쟁과 갈등 상태에서 벗어나, 양국민 공동의 행복한 미래를 향해 함께 나아가야 한다고 생각합니다.

강원도교육청과 돗토리현교육위원회의 교육교류는 1995년 자매결연 협정을 시작으로 하여 활발히 진행되어 왔으나, 대한민국의 영토 독도에 대한 일본정부의 영유권 주장으로 인해 2005년과 2008년 두 차례나 중단되었습니다.

저는 강원도교육감으로서 양도·현의 교육교류가 재개되어 양측 학생들과 교육관계자들이 상호 존중과 상생의 토대를 굳건히 다져 나가기를 바랍니다. 하지만 향후 돗토리현 지방정부 및 의회에서만큼은 양국간 영토문제에 관여하지 않는다는 전제가 있어야만 중단 없는 진정한 우호 교육교류가 가능할 것입니다.

양도·현의 교육발전과 협력을 위해 요코하마 교육장님과 함께 진솔하게 의견을 교환할 수 있는 기회가 조만간 마련되기를 바랍니다. 교육장님의 건승과 돗토리현교육위원회의 무궁한 발전을 기원합니다.

2010년 8월 5일

민 병 희
강원도교육감

第1回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要

平成２２年８月２０日
教育環境課・文化財課

県立鳥取西高等学校の整備に向け、「文化財の保存と活用」、「生徒の安全確保」、「教育環境の改善」の観点から、様々な分野の方に意見を聞き、整備の方向性を検討するため、鳥取西高等学校整備のあり方検討会を設置し、第１回検討会を下記のとおり開催した。

１　日時等

日　時：平成２２年８月２日（月）午後１時３０分～３時３０分まで
場　所：県庁 議会棟３階 特別会議室
出席者：検討会委員１０名（濱田委員は欠席）
　　県教育長、教育総務課長、教育環境課長、文化財課長　ほか

２　第1回の趣旨

各委員に、現状と問題点等の共通認識を図る。

３　第1回検討会を終えての道上座長のまとめ

次回は以下について準備し、議論を深めていきたい。

・これまでの文化庁とのやりとりの経緯の説明。 ・現行案を許可できない理由について、文化庁担当者から直接話を聞く。 ・鳥取市の史跡の全体整備計画の説明。 ・各方面の関係者の意見を尊重しながら、ソフトランディングする方向性を検討するための資料を事務局で作成。

４　意見等

【学識経験者】

○「文化財の保護」の意味や「史跡を利用する」ということへの認識が不十分である。
○鳥取市の「史跡保存整備基本計画」中の「当面併存を許容」し、「将来的には移転を含め、『あり方』を検討する」の趣旨の確認。
○文化庁が現行案を許可できない理由の詳細について説明がほしい。
○平成15年５月以降の経緯にみる文化庁の発言のブレと県の対応。
○今回、このような問題となった原因の一つは、関係者の共通認識が図られていなかったこと。意思統一し、史跡を活かして、街を活性化していきたい。
○各方面の意見を尊重し、整理しながら、ソフトランディングできる方向性を事務局で作成してほしい。
○鳥取市が進めている史跡全体の整備計画も説明してほしい。

【学校関係者】

○文化庁との協議の経緯があり、今になって改築ができないとする文化庁の意見はぶれている。文化庁、県や市も地域主権の考えに沿って、ぶれない方向で整備を検討してほしい。

○移転は長く議論されているが、現在地以上の適地が見つからなかった。当面は共存で進めないか。

○文化庁とのやりとりの経緯も示してほしい。

○学校を管理する者としては、耐震性のない建物の中で、生徒の安全確保はできない。長期的な整備とは切り離して、最低限、耐震補強はしてほしい。

5　検討会委員（11名）

▼学識経験者

池本　百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】
岡田　昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】
坂出　　徹【鳥取商工会議所専務理事】
錦織　　勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】
濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】（欠席）
東樋口　護【鳥取環境大学副学長】
道上　正規【（財）とっとり地域連携・総合研究センター理事長】（座長）

▼学校関係者

青木　節也【鳥取西高等学校校長】
池内　勝彦【鳥取西高等学校ＰＴＡ会長、同窓会副会長】
松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

▼鳥取市

楮原　伸一【鳥取市教育委員会事務局次長】

6　次回開催予定

平成２２年９月９日（木）１３時３０分～
県庁 第３４会議室（第２庁舎４階）

公立学校施設の耐震改修状況調査の結果について

平成22年8月20日
教 育 環 境 課

1 耐震診断実施率状況

○小中学校については、95．9%(対前年度 1．4ポイント増)

	耐震診断実施率(注)			
	平成20年4月1日	平成21年4月1日	平成22年4月1日	「耐震診断実施中」と「H22年度中実施予定」がある棟を加えた実施率
小中学校	82．2% (93．8%)	94．5% (95．7%)	95．9% (98．0%)	96．4% (98．4%)
高等学校	87．9% (90．5%)	91．6% (93．1%)	91．5% (96．3%)	91．5% (96．8%)
特別支援学校	96．4% (95．3%)	100．0% (95．5%)	100．0% (97．6%)	100．0% (98．7%)
幼稚園	0．0% (74．9%)	0．0% (79．1%)	0．0% (89．0%)	0．0% (91．6%)

※1 (注) 旧耐震基準建物(昭和56年以前建築)のうち耐震診断実施済み棟数の割合
※2 ( )内の数値は全国の値

2 耐震化状況

○小中学校については65．7%(対前年度 2．8ポイント増)
○高等学校については53．6%(対前年度 3．0ポイント増)

	耐震化率(注)		
	平成20年4月1日	平成21年4月1日	平成22年4月1日
小中学校	58．7% (62．3%)	62．9% (67．0%)	65．7% (73．3%)
高等学校	47．0% (64．4%)	50．6% (67．8%)	53．6% (72．9%)
特別支援学校	82．6% (80．5%)	84．8% (82．8%)	97．8% (87．9%)
幼稚園	55．6% (57．8%)	55．6% (60．1%)	66．7% (66．2%)

※1 (注)全建物のうち、耐震性がある棟数(昭和57年以降建築の棟数及び昭和56年以前建築で耐震性がある棟と耐震補強済みの棟)の割合
※2 ( )内の数値は全国の値
※3 高等学校の耐震化率は、平成24年4月1日には74．9%となる見込みである。
また、特別支援学校は今年度中に耐震化率100%となる。

3 公立小中学校の耐震性がない建物の耐震診断結果分布状況

単位:棟

Is＜0.3	0.3≦Is＜0.5	0.5≦Is＜0.6	0.6≦Is＜0.7	計
20 (8.3%)	127 (52.5%)	63 (26.0%)	32 (13.2%)	242 (100.0%)

※ 国土交通省告示第184号(平成18年)においてIs値について、Is値0．3未満は、大規模地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いとされ、Is値0．6以上は、倒壊または崩壊する危険性が低いとされている。

平成２２年度全国学力・学習状況調査結果 鳥取県の概要について

平成２２年８月２０日
小中学校課

1 実施状況

※４月２０日に実施した抽出調査（公立学校）の結果を集計

【小学校６年生】

教科等	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	質問紙
人　数	2,343	2,343	2,343	2,343	2,343

【中学校３年生】

教科等	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	質問紙
人　数	2,710	2,711	2,711	2,714	2,714

2 教科の概要

（１）小学校６年生

〔平均正答率〕　　［単位：％］

	国語A			国語B			算数A			算数B		
	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差
H19	84.4	81.7	2.7	64.0	62.0	2.0	84.2	82.1	2.1	65.0	63.6	1.4
H20	68.0	65.4	2.6	51.7	50.5	1.2	73.3	72.2	1.1	52.2	51.6	0.6
H21	70.9	69.9	1.0	52.5	50.5	2.0	81.5	78.7	2.8	55.9	54.8	1.1
H22 ※１	85.8 (±0.8)	83.3 (±0.2)	2.5 (±1.0)	81.0 (±1.1)	77.8 (±0.2)	3.2 (±1.2)	76.5 (±1.1)	74.2 (±0.2)	2.3 (±1.3)	51.4 (±1.1)	49.3 (±0.2)	2.1 (±1.3)
※２	85.0-86.6	83.2-83.5	+1.5-+3.4	80.0-82.1	77.7-78.0	+2.0-+4.4	75.4-77.5	74.0-74.4	+1.0-+3.5	50.3-52.5	49.1-49.5	+0.8-+3.4

本年の調査は抽出調査であるため、調査結果として示した各種の数値は、あくまでも推計値であり、誤差を含めた幅のある数値である（中学校３年生の表も同様）

※1：95％の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲の中央の値

※2：95％の確率で、全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲

①国　語

○国語Ａ（主として知識）…１５問

- 平均正答率は、**全国に比べて＋2.5ポイント（昨年度は＋1.0ポイント）。**
- どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
- 全ての問題で平均正答率は全国平均を上回っている。
  「漢字を書く（ひさしぶりにおじさんに会う）」問題（全国比＋4.6ポイント）。

○国語Ｂ（主として活用）…１０問

- 平均正答率は、**全国に比べて＋3.2ポイント（昨年度は＋2.0ポイント）。**
- どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
- 全ての問題で平均正答率は全国平均を上回っている。
  「話し手が聞き手に問いかけるよさについての説明を書く」問題
  （＋5.3ポイント）

〔国語関係の質問紙〕

■全国平均より高いもの
・「国語の授業の内容はよく分かる」（＋1.5ポイント）
・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」（＋1.5ポイント）
・「読書が好きだ」（＋1.2ポイント）
■全国平均より低いもの
・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」（－1.7ポイント）

②算　数

○算数Ａ（主として知識）…１９問
・平均正答率は、**全国に比べて＋2.3ポイント（昨年度は＋2.8ポイント）。**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・平均正答率が全国平均より高い問題は１５問。
「加法と乗法の混合した整数の計算をする」問題（全国比＋7.8ポイント）。
・平均正答率が全国平均より低い問題は３問。
「数量を等分したときの１つ分を分数で表す」問題（全国比－4.4ポイント）。
○算数Ｂ（主として活用）…１２問
・平均正答率は、**全国に比べて＋2.1ポイント（昨年度は＋1.1ポイント）。**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・平均正答率が全国平均より低い問題は３問。
「定価１０００円の図に対して、定価の３０％引き後の値段を表している図を選ぶ」問題（全国比－1.3ポイント）。

〔算数関係の質問紙〕
■全国平均より高いもの
・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」（＋2.5ポイント）
・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」（＋2.4ポイント）
■全国平均より低いもの
・「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」（－2.0ポイント）

（２）中学校３年生
〔平均正答率〕　［単位：％］

	国語A			国語B			数学A			数学B		
	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差	本県(公立)	全国(公立)	差
H19	81.9	81.6	0.3	72.0	72.0	0.0	73.3	71.9	1.4	61.2	60.6	0.6
H20	75.5	73.6	1.9	61.3	60.8	0.5	64.4	63.1	1.3	50.9	49.2	1.7
H21	79.3	77.0	2.3	76.4	74.5	1.9	64.0	62.7	1.3	58.4	56.9	1.5
H22 ※1	77.1 (±0.6)	75.1 (±0.1)	2.0 (±0.7)	67.1 (±0.9)	65.3 (±0.2)	1.8 (±1.1)	66.1 (±1.3)	64.6 (±0.2)	1.5 (±1.5)	44.5 (±1.3)	43.3 (±0.2)	1.2 (±1.5)
※2	76.6~77.7	75.0~75.2	+1.4~+2.7	66.2~67.9	65.1~65.5	+0.7~+2.8	64.8~67.4	64.4~64.8	±0.0~+3.0	43.2~45.7	43.1~43.5	−0.3~+2.6

①国　語

○国語Ａ（主として知識）…３５問

・平均正答率は、**全国に比べて＋2.0ポイント（昨年度は＋2.3ポイント）。**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・平均正答率が全国平均より高い問題は３２問。
「演説の話し方の特徴として適切なものを選択する」及び「適切な敬語を選択する」問題（それぞれ全国比＋6.6ポイント）。
・平均正答率が全国平均より低い問題は３問。
「漢字を書く（コウシキを使って面積を求める）」問題（全国比－5.1ポイント）。

○国語Ｂ（主として活用）…１０問
・平均正答率は、**全国に比べて＋1.8ポイント。（昨年度は＋1.9ポイント）**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・全ての問題で平均正答率は全国平均を上回っている。
「新聞を読んで、興味をもった記事について感想を書く」問題
（全国比＋5.0ポイント）。

〔国語関係の質問紙〕
■全国平均より高いもの
・「読書が好きだ」（＋4.7ポイント）
・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」（＋1.8ポイント）
■全国平均より低いもの
・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」（－2.5ポイント）

②数　学

○数学Ａ（主として知識）…３６問
・平均正答率は、**全国に比べて＋1.5ポイント（昨年度は＋1.3ポイント）。**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・平均正答率が全国平均より高い問題は２７問。
「総当たり戦の試合数を求める」問題（全国比＋9.4ポイント）。
・平均正答率が全国平均より低い問題は９問。
「比例のグラフから、ｘの変域に対するｙの変域を求める」問題
（全国比－5.6ポイント）

○数学Ｂ（主として活用）…１４問
・平均正答率は、**全国に比べて＋1.2ポイント（昨年度は＋1.5ポイント）。**
・どの領域、評価の観点、問題形式についても平均正答率は全国平均を上回っている。
・平均正答率が全国平均より高い問題は１１問。
「証明をよみ、２つの三角形の対応する２辺の間の角が等しいことを表している部分を書く」問題（全国比＋3.1ポイント）。

〔数学関係の質問紙〕
■全国平均より高いもの
・「数学の勉強は大切だと思う」（＋1.3ポイント）
・「数学ができるようになりたい」（＋0.8ポイント）

■全国平均より低いもの
・「数学の授業の内容がよく分かる」（－6.4 ポイント）
・「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」（－5.8 ポイント）

3 質問紙調査の概要

※〔　　〕内の数字は質問番号，（昨年度比±ポイント）は昨年度の県の平均値との差

○〔１６・１７〕

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に「２時間以上」という回答は、全国比で小学校－6.6 ポイント（昨年度比＋0.7 ポイント）中学校－6.8 ポイント（昨年度比＋0.4 ポイント）。

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか」に「３時間以上」という回答は、全国比で小学校－3.7 ポイント（昨年度比＋1.8 ポイント）中学校－0.5 ポイント（昨年度比＋2.2 ポイント）。

○〔２７・２８〕

「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校の予習が+0.7 ポイント、復習が＋6.6 ポイント（昨年度比＋6.5 ポイント，＋7.9 ポイント）中学校の予習が－8.6 ポイント、復習が－4.3 ポイント（昨年度比+2.2 ポイント，＋6.1 ポイント）。

○〔２５〕

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校－0.9 ポイント（昨年度比＋2.3 ポイント）、中学校－0.5 ポイント（昨年度比＋4.4 ポイント）。

○〔２１・２２〕

「家の人と普段（月～金曜日）夕食を一緒に食べていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校＋2.9 ポイント（昨年度比－0.2 ポイント）中学校＋4.8 ポイント（昨年度比＋0.6 ポイント）。

「家の人と学校でのできごとについて話をしていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校＋0.8 ポイント（昨年度比＋3.2 ポイント）、中学校＋0.1 ポイント（昨年度比＋2.8 ポイント）。

○〔１９・２０〕

「家や図書館で、普段（月～金曜日）１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に「１０分以上」という回答は、全国比で小学校＋3.5 ポイント（昨年度比－1.5 ポイント）中学校＋8.5 ポイント（昨年度比＋1.0 ポイント）。

「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか」に「週に１回以上」という回答は、全国比で小学校＋15.2 ポイント（昨年度比－1.7 ポイント）、中学校＋9.1 ポイント（昨年度比－1.6 ポイント）。

○〔９〕

「普段（月～金曜日）何時ごろに起きますか」に「朝７時までに起きる」という回答は、全国比で小学校＋8.3 ポイント（昨年度比－1.8 ポイント）。中学校－5.4 ポイント（昨年度比＋3.8 ポイント）。

○〔１２〕

「普段（月～金曜日）１日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、聞いたりしますか」に「２時間以上」という回答は、全国比で小学校＋1.5 ポイント（昨年度比－0.8 ポイント）、中学校＋1.3 ポイント（昨年度比－4.0 ポイント）。

○〔１５・２４〕

「携帯電話で通話やメールをしていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校－10.9 ポイント（昨年度比＋0.5 ポイント）中学校－26.6 ポイント（昨年度比－3.7 ポイント）。

「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校－10.5 ポイント、（昨年度比＋1.6 ポイント）、中学校－21.3 ポイント（昨年度比＋0.5 ポイント）。

○〔３４〕

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に肯定的な回答は、全国比で小学校＋14.5 ポイント（昨年度比±0.0 ポイント）、中学校＋9.6 ポイント（昨年度比＋0.2 ポイント）。

このたびの調査は抽出調査であるため、調査結果として示した各種の数値は、あくまでも推計値であり、誤差を含めた幅のある数値である。

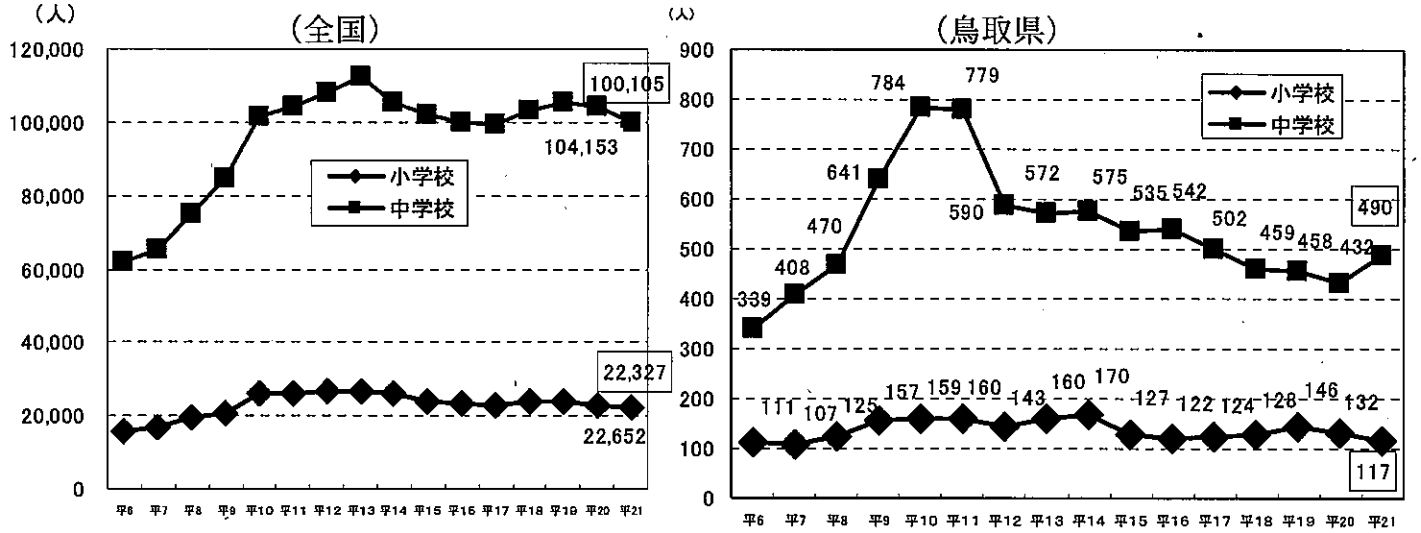
平成２１年度全国小･中学校不登校児童生徒の状況について

平成２２年８月２０日
小中学校課

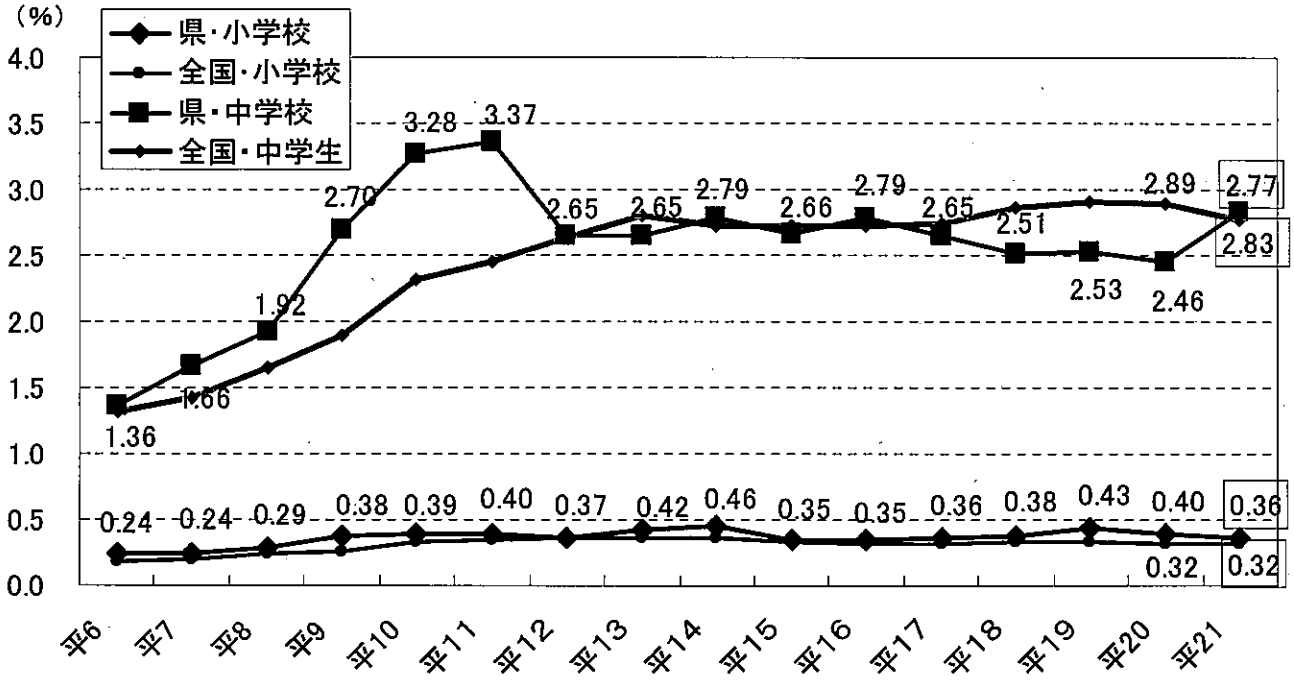
平成２２年８月６日に文部科学省から「平成２１年度児童生徒の生徒指導上の諸問題に関する調査」（小･中学校不登校等）速報値（市町村立学校以外の国立・私立学校も含む全国及び県の数値）が発表された。

１　不登校児童生徒の状況について

【不登校児童生徒の数の推移】



【不登校児童生徒の割合の推移】



・鳥取県小学校では昨年に比べ、人数・割合ともに減少
・鳥取県中学校でここ数年減少傾向であった不登校生徒数は人数･割合ともに増加
・全国小学校では昨年に比べ、不登校児童数は減少、出現率は横ばい
・全国中学校では昨年に比べ、人数･割合ともに減少

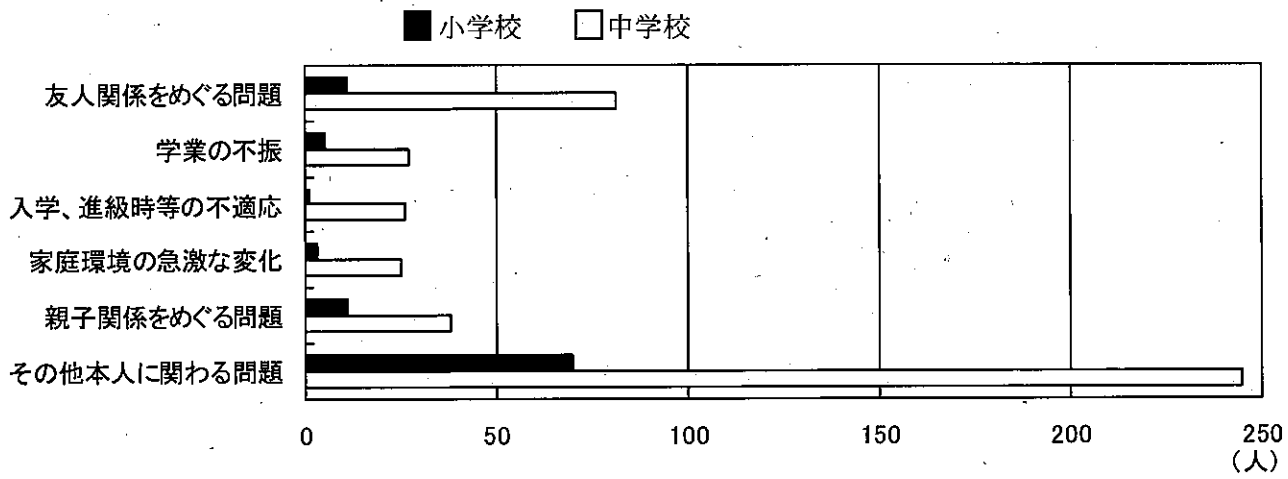
2　本県の学年別･男女別の状況について

区分	不登校児童生徒数 学年別内訳																		計		
	1年			2年			3年			4年			5年			6年					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
小学校	1	2	3	6	1	7	8	6	14	9	11	20	19	16	35	23	15	38	66	51	117
※	－	－	－	2	0	2	0	1	1	3	1	4	10	5	15	8	5	13	23	12	35
中学校	76	62	138	98	72	170	77	92	169	－	－	－	－	－	－	－	－	－	251	226	477
※	15	23	38	52	35	87	53	58	111	－	－	－	－	－	－	－	－	－	120	116	236
合計	77	64	141	104	73	177	85	98	183	9	11	20	19	16	35	23	15	38	317	277	594
※の合計	15	23	38	54	35	89	53	59	112	3	1	4	10	5	15	8	5	13	143	128	271

※の欄は前年度から不登校の状態（３０日以上）が継続している児童生徒の人数

・小学校では４年生から５年生にかけて大きく増加（１５人増）
・中学校では１年生の不登校生徒数１３８人のうち、小学校から引き続きの生徒３８人、新たに不登校になった生徒は１００名
・中学２年生で新たに不登校になった生徒は８３人、中学３年では５８人で、学年が上がるにつれて減少傾向

3　不登校のきっかけについて



・ 本人に関わる問題（極度の不安や緊張、無気力等）が小･中ともに最も多い
・ いじめを除く友人関係をめぐる問題（けんか等）が中学校で多い
・ 親子関係をめぐる問題（親の叱責、言葉･態度への反発等）も小･中ともに多い
・ 要因が複数あるため特定できない、本人が面談を拒否するなど、きっかけが不明なものもある

4　分　析

（1）中学入学後に不登校になった生徒は、中学１年生の不登校生徒数の約７割で、小中連携の対策が必要

→　中学１年生で不登校生徒数が増加した背景として、小学校との環境の変化（教科担任制、新しい仲間との出会い、学習難易度のアップ等）で周囲と人間関係をうまく結ぶことができないこと等が考えられ、配慮を要する生徒の中学校入学時における小中の情報交換が大変重要になってくる。

（2）不登校の児童生徒に対しては、担任、学年主任を中心として、養護教諭、教育相談担当教員、スクールカウンセラー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター（適応指導教室）等が連携して支援しており、年度末には小学校で５０人（約４２％）、中学校で１８５人（約３９％）が登校できるようになった。

5　本年度（Ｈ２２年度）の不登校対策について

（1）スクールカウンセラー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカーの継続的配置

（2）不登校（傾向）の児童生徒への対応

○学級担任、生徒指導担当教員、養護教諭、教育相談担当教員などによるきめ細かな対応

・家庭との連絡・関わり
・子どもの状況に応じて相談室や保健室等の活用
・友人関係の調整や教室復帰への支援
・スクールカウンセラーや相談員によるカウンセリング

○校内支援体制の整備や関係諸機関との連携

・研修会や事例研究会を通じた全教職員の共通理解
・小・中学校間の連携（情報の共有）
・教育支援センター等の相談機関との連携
・不登校対応ネットワークシステム構築研究事業の推進
　（教育支援センター間の交流や情報交換を行う事業）

（3）不登校児童生徒を生まない教育活動の推進

・わかる喜びの持てる授業の推進
・心の居場所のある学級・学校づくり
・Ｑ－Ｕ調査等を用いた生徒や学級の状況の客観的な分析
　（学級満足度･学校生活意欲調査）
・道徳、特別活動の充実や人間関係づくりの取組の充実
・中学校入学時、進級時の学級編成の工夫

平成２１年度鳥取県立高等学校不登校生徒の状況について

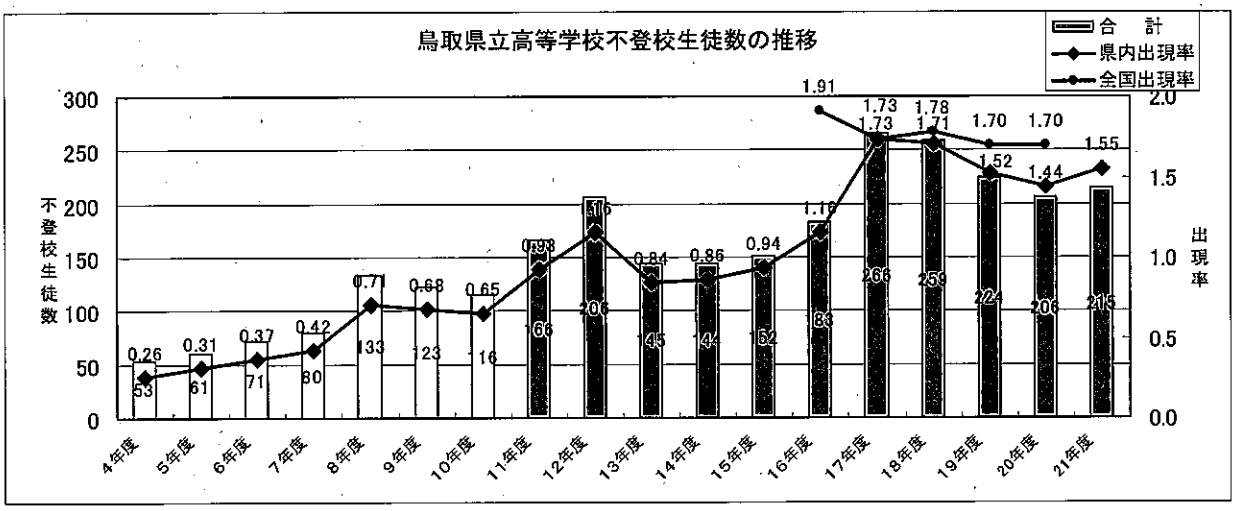
平成２２年８月２０日
高　等　学　校　課

１　不登校生徒の状況

（１）概　況

ア　不登校生徒数の推移

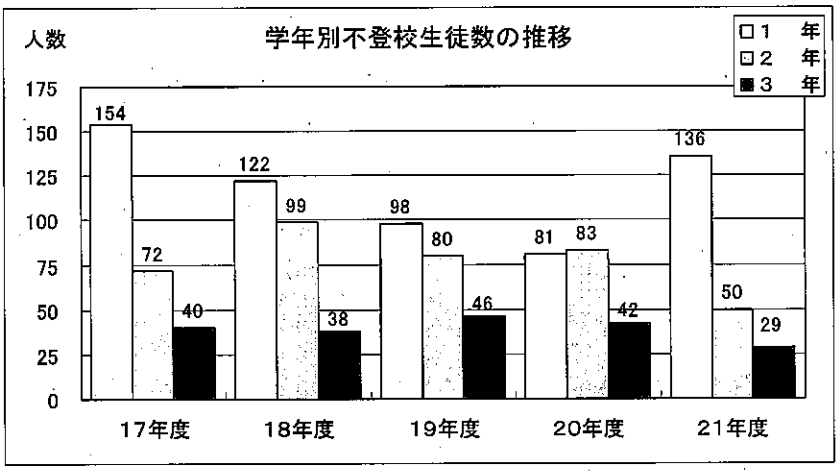
４年ぶりに生徒数・出現率とも増加。



（注）不登校を理由とする欠席日数の集計。
平成１０年度までは年間５０日以上、１１年度以降は３０日以上の欠席を対象としている。

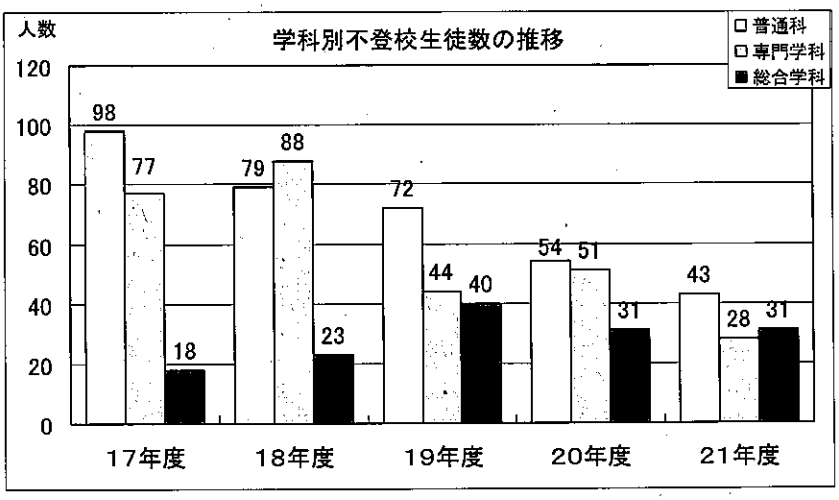
イ　学年別状況

・１年生の不登校生徒数が大幅に増加し、全体の不登校生徒数を増加させた。
・２・３年生の不登校生徒数は、減少傾向。



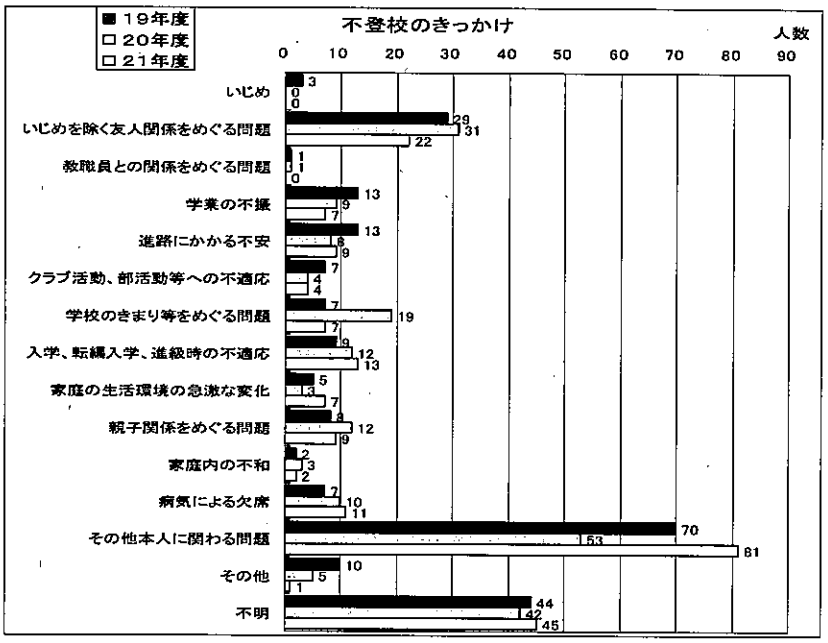
ウ　学科別状況

・普通科における不登校生徒数は４年連続して減少。
・専門学科における不登校生徒数は、大幅に減少。
・学科による不登校生徒数の差は縮小傾向。



（２）不登校のきっかけ

・本人に関わる問題に起因するものが、最も多く、昨年度より増加。
・いじめに起因する不登校生徒はいなかった。
・友人関係をめぐる問題に起因する不登校は減少。
・要因が複数あるため特定できない、本人が面談を拒否する等のきっかけ不明のものが昨年同様多数。（全体の約２割）



２　分　析

（１）高校入学後に不登校となった生徒は、全不登校生徒の約５割。特に、総合学科ではその割合が８割となっている。

（２）不登校の生徒に対しては、担任、学年主任をはじめ、養護教諭、校内教育相談担当教員、スクールカウンセラー、外部専門機関等が連携して支援しているが、年度末の時点で授業に出席できるようになった生徒は、３２名で約１５％にとどまった。

（３）１年生の不登校生徒数が増加した背景として、入学時の目的意識が希薄で学習意欲が欠如している、入学後に集団生活に適応できない等の生徒の増加が考えられる。

（４）昼夜が逆転するなど生活が乱れている、あそび・非行、無気力、意図的拒否など、「その他本人に関わる問題」で不登校となる生徒が増加。背景として、学習内容に興味が持てない、将来についての目標や展望が持てない、友人や家族との関わりが希薄になっていることなどが考えられる。

３　２１年度の取組

（１）スクールカウンセラー・教育相談員の配置

ア　スクールカウンセラーを全県立高校２４校に配置。

イ　臨床心理士の資格を有する教育相談員を東中西部各教育局に配置し、各学校を訪問。

（２）ひきこもり（傾向）の生徒への支援に関する研究調査事業（県教育センター）

ア　ハートフルユニット（通所指導）

イ　中途退学予防としてのQ-U調査を協力校８校で実施。

（３）ソーシャルスキル育成事業

ア　青谷高校、鳥取中央育英高校、米子高校の１年生を対象。

イ　鳥取大学の協力を得て、教育相談員と担任とのＴＴにより各校年３回実施。

４　今後の不登校防止策

（１）生徒の状況を把握した上での、タイミングのよい面談やカウンセリング。

（２）担任、教育相談担当教員、スクールカウンセラー、関係専門機関等の連携。

（３）ｈｙｐｅｒ－ＱＵ調査等を用いた生徒の状況の客観的な分析。

（４）個人情報の保護に配慮した上での中学校との連携。

鳥取県立高等学校の不登校生徒数の推移

高等学校課

		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
在籍生徒数		15,339		15,167		14,732		14,330		13,904	
学年別	1年	154	2.96	122	2.33	98	2.00	81	1.68	136	2.86
	2年	72	1.40	99	1.98	80	1.61	83	1.77	50	1.09
	3年	40	0.80	38	0.77	46	0.95	42	0.87	29	0.64
	4年	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合　計		266	1.73	259	1.71	224	1.52	206	1.44	215	1.55
男女別	男	121	1.59	109	1.42	89	1.19	100	1.38	108	1.55
	女	145	1.88	150	2.00	135	1.86	106	1.50	107	1.54
課程別	全日制	193	1.31	190	1.30	156	1.10	136	0.98	102	0.76
	定時制	73	13.04	69	12.52	68	12.30	70	13.54	113	22.11
全日制課程別	普通科	98	1.30	79	1.06	72	0.98	54	0.74	43	0.60
	専門学科	77	1.28	88	1.48	44	0.78	51	0.94	28	0.55
	総合学科	18	1.48	23	1.91	40	3.44	31	2.79	31	2.86
退学者数		85		73		77		72		64	
不登校生徒に対する割合(%)		32.0		28.2		34.4		35.0		29.8	
全国の不登校率(公立高等学校)		1.73		1.78		1.70		1.70		未発表	

率(%)はそれぞれの母集団における出現率を表す。

不登校のきっかけ		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学校生活に起因	いじめ	42	15.8	3	1.1	3	1.3	0	0.0	0	0.0
	いじめを除く友人関係をめぐる問題			43	16.0	29	12.9	31	14.6	22	10.4
	教職員との関係をめぐる問題	2	0.8	3	1.1	1	0.4	1	0.5	0	0.0
	学業の不振	15	5.6	6	2.2	13	5.8	9	4.2	7	3.2
	進路にかかる不安	8	3.0	6	2.2	13	5.8	8	3.8	9	4.1
	クラブ活動、部活動等への不適応	1	0.4	5	1.9	7	3.1	4	1.9	4	1.8
	学校のきまり等をめぐる問題	12	4.5	6	2.2	7	3.1	19	9.0	7	3.2
	入学、転編入学、進級時の不適応	20	7.5	17	6.3	9	4.0	12	5.7	13	6.0
	小計	100	37.6	86	32.1	79	35.1	84	39.6	62	28.4
家庭生活に起因	家庭の生活環境の急激な変化	4	1.5	8	3.0	5	2.2	3	1.4	7	3.2
	親子関係をめぐる問題	11	4.1	16	6.0	8	3.6	12	5.7	9	4.1
	家庭内の不和	4	1.5	6	2.2	2	0.9	3	1.4	2	0.9
	小計	19	7.1	30	11.2	15	6.7	18	8.5	18	8.3
本人の問題に起因	病気による欠席	15	5.6	21	7.8	7	3.1	10	4.7	11	5.0
	その他本人に関わる問題	100	37.6	99	36.9	70	31.1	53	25.0	81	37.2
	小計	115	43.2	120	44.8	77	34.2	63	29.7	92	42.2
その他		15	5.6	3	1.1	10	4.4	5	2.4	1	0.5
不明		17	6.4	29	10.8	44	19.6	42	19.8	45	20.6
合計		266	100	268	100	225	100	212	100	218	100

(注1)17年度までは、不登校生徒1人につき、主たるきっかけを1つ選択。18年度以降は、考えられるものをすべて選択。
(注2)%は不登校のきっかけにおける構成比率を表す。

平成２１年度鳥取県立高等学校中途退学者の状況について

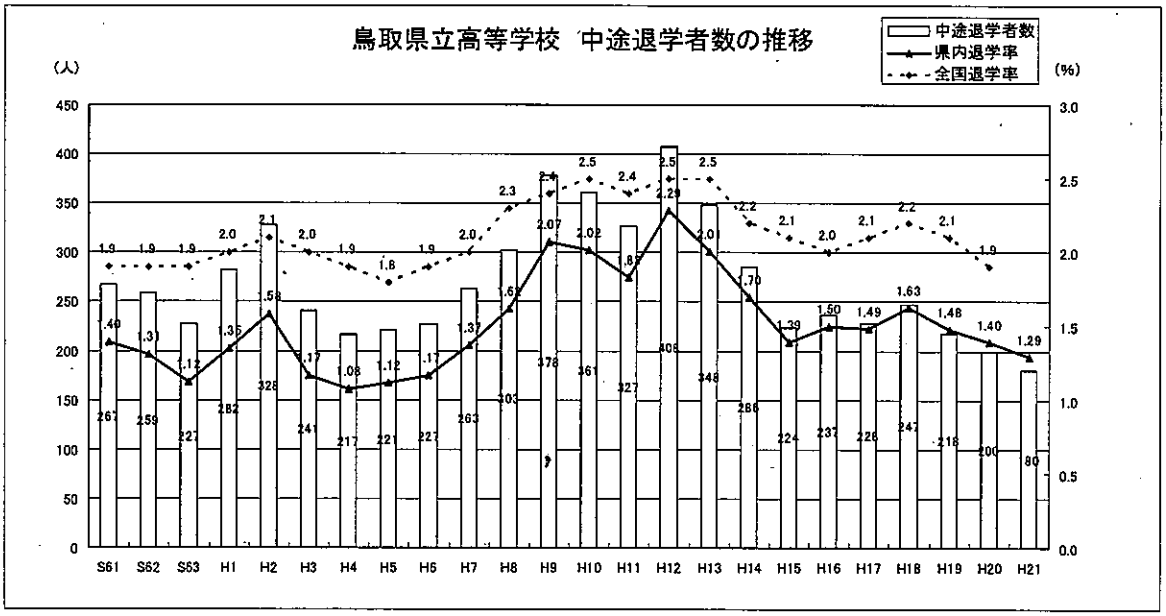
平成２２年８月２０日
高　等　学　校　課

１　中途退学者の状況

（１）概　況

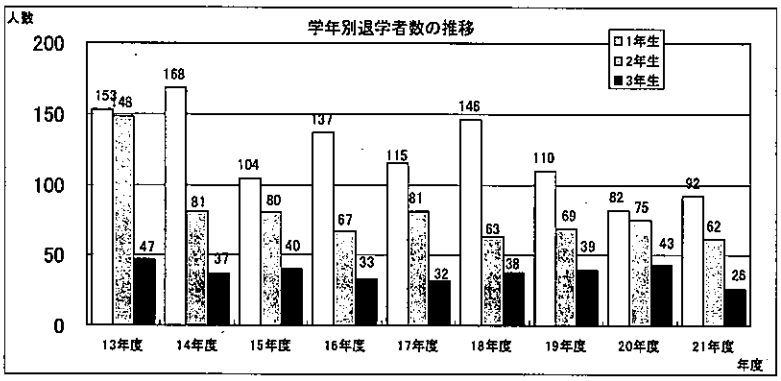
ア　退学者数の推移

県内については３年連続の減少となった。人数は昭和６１年度以降最少、退学率も平成６年以来の低水準。



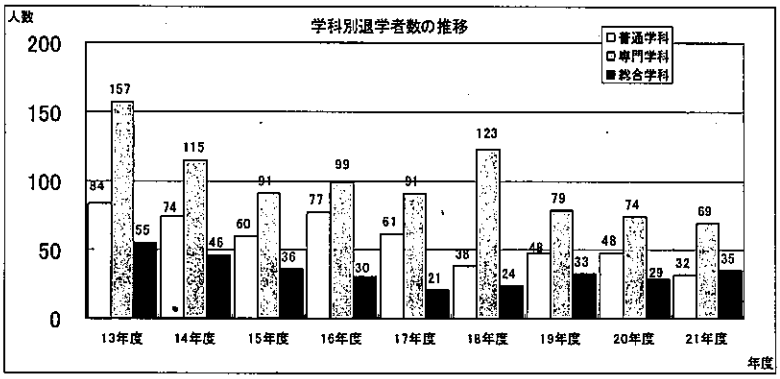
イ　学年別状況

１年生の退学者数が３年ぶりに増加に転じた反面、２、３年生の退学者数はともに減少。



ウ　学科別状況

学科別の退学者数は普通科で減少したが、総合学科では増加。専門学科は４年連続で減少。



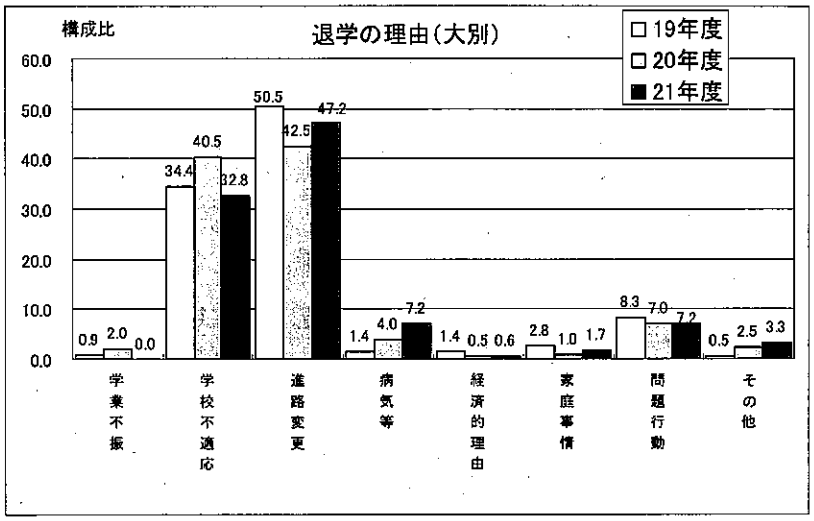
（２）理　由

ア　退学者数のうち、進路変更を理由とするものの割合は増加したが、実人数は同数。
（８５人→８５人）

イ　特に、就職を希望するものが増加。
（３８人→５５人）

ウ　逆に学校生活・学業不適応を理由とするものは減少。
（８１人→５９人）

エ　高卒程度認定試験を受験する予定の者や、合格して進学が決まり退学する者が減少。
（１６人→７人）



2　分　析

（１）全体の退学者数が減少した背景には、教育相談体制が充実し、怠学や不登校傾向から安易な退学とならないよう指導がなされていることが挙げられる。

（２）学校の雰囲気が合わないことから退学した生徒は大きく減少（２０人→９人）。高校入学後に集団作りや人間関係作り等の指導が効果を上げたと考えられる。

（３）就職を希望して退学した生徒は昨年より大幅に増加（３８人→５５人）。景気の低迷から家庭の経済的な状況が悪化したことのほか、学校での生活に熱意がなく目的や目標を持てないまま怠学傾向に陥ったことが就職を希望するきっかけとなっていると考えられる。

3　中途退学防止策について

（１）生徒が意欲的に学校生活を送るための取組

ア　学習意欲を喚起し、分かる授業の創造に向けた授業改善と教科指導力の向上

イ　学校内外における生徒の活躍の場所の確保（部活動、生徒会活動、地域貢献活動等）

ウ　キャリア教育の推進による自らの生き方に対する自覚と進路意識の高揚

エ　生徒の状況を把握するための個人面談の機会の確保

（２）不登校防止、問題行動抑止のための取組

ア　基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成

イ　不登校傾向にある生徒への早期対応

ウ　ソーシャルスキル育成のトレーニング

エ　個人情報の保護に配慮した上での中学校との連携

鳥取県立高等学校の中途退学者数の推移

高等学校課

			１７年度		１８年度		１９年度		２０年度		２１年度	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学年別	１　年		115	50.5%	146	59.1%	110	50.5%	82	41.0%	92	51.1%
	２　年		81	35.5%	63	25.5%	69	31.7%	75	37.5%	62	34.4%
	３　年		32	14.0%	38	15.4%	39	17.9%	43	21.5%	26	14.4%
	４　年		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合　計			228		247		218		200		180	
男女	男		115	50.4%	136	55.1%	113	51.8%	119	59.5%	99	55.0%
	女		113	49.6%	111	44.9%	105	48.2%	81	40.5%	81	45.0%
全定	全日制		173	75.9%	185	74.9%	160	73.4%	151	75.5%	136	75.6%
	定時制		55	24.1%	62	25.1%	58	26.6%	49	24.5%	44	24.4%
全日制学科別	普通科		61	35.3%	38	20.5%	48	30.0%	48	31.8%	32	23.5%
	専門学科		91	52.6%	123	66.5%	79	49.4%	74	49.0%	69	50.7%
	総合学科		21	12.1%	24	13.0%	33	20.6%	29	19.2%	35	25.7%
退学の主な理由	学業不振		3	1.3%	5	2.0%	2	0.9%	4	2.0%	0	0.0%
	学校生活・学業不適応		85	37.3%	98	39.7%	75	34.4%	81	40.5%	59	32.8%
		高校生活に熱意がない	44	19.3%	39	15.8%	22	10.1%	11	5.5%	12	6.7%
		授業に興味がわかない	12	5.3%	9	3.6%	14	6.4%	23	11.5%	23	12.8%
		人間関係がうまく保てない	14	6.1%	23	9.3%	20	9.2%	15	7.5%	13	7.2%
		学校の雰囲気があわない	6	2.6%	7	2.8%	11	5.0%	20	10.0%	9	5.0%
		その他	9	3.9%	20	8.1%	8	3.7%	12	6.0%	2	1.1%
	進路変更		104	45.6%	99	40.1%	110	50.5%	85	42.5%	85	47.2%
		別の高校	29	12.7%	15	6.1%	20	9.2%	22	11.0%	11	6.1%
		専修学校等	7	3.1%	11	4.5%	8	3.7%	6	3.0%	5	2.8%
		就職希望	60	26.3%	42	17.0%	68	31.2%	38	19.0%	55	30.6%
		認定試験希望	5	2.2%	12	4.9%	7	3.2%	16	8.0%	7	3.9%
		その他	3	1.3%	19	7.7%	7	3.2%	3	1.5%	7	3.9%
	病気・けが・死亡		3	1.3%	5	2.0%	3	1.4%	8	4.0%	13	7.2%
	経済的理由		6	2.6%	5	2.0%	3	1.4%	1	0.5%	1	0.6%
	家庭の事情		7	3.1%	9	3.6%	6	2.8%	2	1.0%	3	1.7%
	問題行動等		7	3.1%	23	9.3%	18	8.3%	14	7.0%	13	7.2%
	その他		13	5.7%	3	1.2%	1	0.5%	5	2.5%	6	3.3%
本県退学率（%）			1.49		1.63		1.48		1.40		1.29	
全国退学率（%）（公立高校）			2.1		2.2		2.1		1.9		未発表	

第３４回全国高等学校総合文化祭宮崎大会の結果について

平成２２年８月２０日
高　等　学　校　課

1　開催期間　平成２２年８月１日（日）から８月５日（木）
2　開　催　地　宮崎県内各地（宮崎市ほか）
3　参加生徒数　全２０部門中、１８部門３３１名
（２０部門；パレード,演劇,合唱,吹奏楽,器楽･管弦楽,日本音楽,吟詠剣詩舞,郷土芸能,マーチングバンド･バトントワリング,美術･工芸,書道,写真,放送,囲碁,将棋,弁論,小倉百人一首かるた,新聞,文芸,国際･ボランティア（※演劇,国際･ボランティアは鳥取県の参加なし））

4　成　　績

（１）弁論部門

賞	受賞者所属・氏名
優良賞（第８位）	鳥取敬愛高等学校２年・長谷川　成美

≪備考≫出場者６４名中、最優秀賞（文部科学大臣賞･旗）１名、
優秀賞（文化庁長官賞）１名、優秀賞５名、優良賞８名

（２）新聞部門

賞	受賞団体
奨励賞	鳥取城北高等学校・倉吉総合産業高等学校

≪備考≫出場約１２０校中、最優秀賞５校、優秀賞校７校、優良賞校３８校、
奨励賞校１２校

（３）文芸部門

賞	受賞者所属・氏名
講師賞（短歌）	鳥取東高等学校２年・森田　悠香

≪備考≫出場（文芸部誌・散文・詩・短歌・俳句）１２９名中、講師賞９名、生徒賞７名

【参考】過去３年間の入賞者

年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度
新聞部門	最優秀賞（鳥取中央育英）	最優秀賞（鳥取中央育英）	最優秀賞（鳥取中央育英）
放送部門			アナウンス部門優秀賞（鳥取東）
写真部門		優秀賞（境）、奨励賞（境港総合技術、鳥取聾）	奨励賞（鳥取聾）
将棋部門	準優勝（鳥取城北：男子個人） 第５位（鳥取西：男子団体）		第５位（境：男子団体） 第５位（鳥取城北：男子個人）
社会科学部門	島根県立大学学長賞（鳥取敬愛）		
書道部門		特別賞（鳥取西）	特別賞（米子西）

文化財の県指定について

平成２２年８月２０日
文　化　財　課

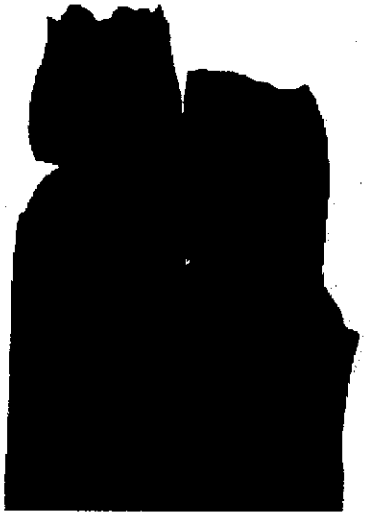
鳥取県文化財保護審議会において、下記の文化財を鳥取県保護文化財及び鳥取県名勝に指定するよう答申があり、平成２２年７月２７日に開催された７月定例教育委員会において鳥取県保護文化財及び鳥取県名勝に指定することが決定されました。

記

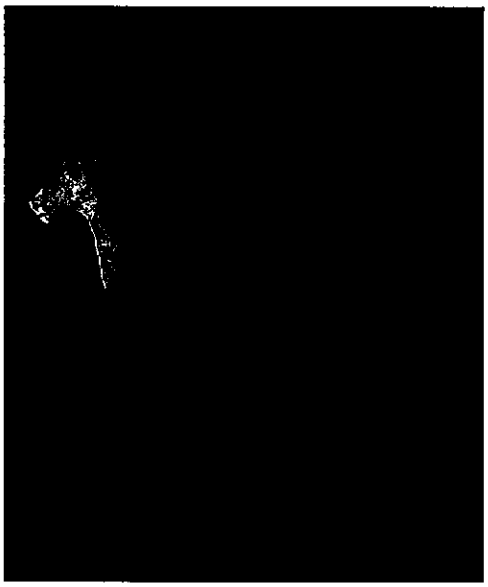
【指定】鳥取県保護文化財

名　称	所在地
井手挾３号墳出土埴輪一括	米子市

＜指定理由＞　井手挾３号墳出土の埴輪群は、個々の保存状態がよく、多彩な形象埴輪群と、円筒埴輪群で構成される良好な一括資料である。古墳における埴輪祭祀の意味や、当該地域の古墳文化の特色を探るうえで、極めて高い学術的価値をもつものであると評価される。



盾持人埴輪



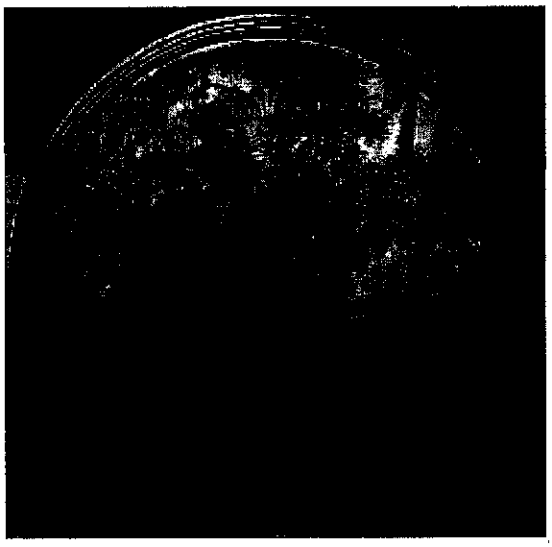
鹿埴輪

【指定】鳥取県保護文化財

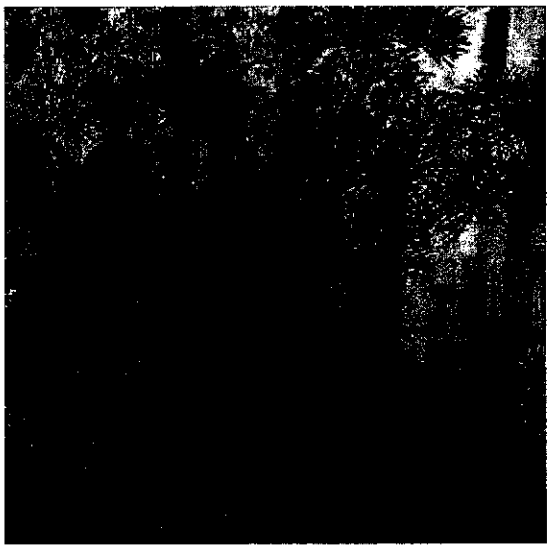
名称	所在地
松に猿嵌木丸額	鳥取市

＜指定理由＞　松に猿嵌木丸額は、鳥取県出身の木工芸家である西村荘一郎によって制作された木象嵌作品である。象嵌の細密な描写、濃淡の表現など、迫力のある絵画的な文様を大規模に展開した大作である。西村の代表作というばかりでなく、明治工芸の代表作品としても位置づけられ、鳥取県の工芸史上、貴重な作品と評価される。

※ 木象嵌とは素地の木材に文様を描いて彫り、その部分に色や木目の違う木片などをはめ込み、絵画や図柄を表現する技法（作品）のこと。



全体像

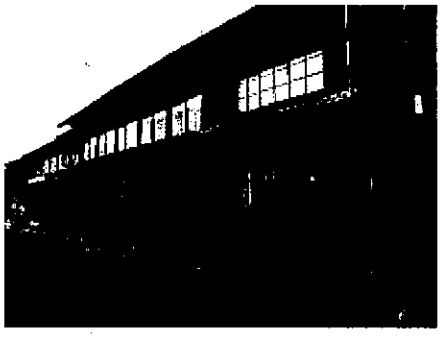


部分拡大

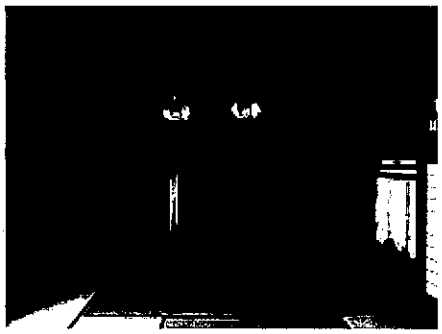
【指定】鳥取県保護文化財

名　称	所在地
桑田家住宅及び醤油醸造施設	倉吉市

＜指定理由＞　桑田家住宅及び醸造施設は、重要伝統的建造物群保存地区打吹玉川地区にとって欠くことのできない存在であると同時に、鳥取県の近代和風住宅を理解する上で重要である。また作業場をはじめとする醸造施設は、敷地全体を使った近代の醸造の形態を良くとどめており貴重である。



本通り沿いの外観



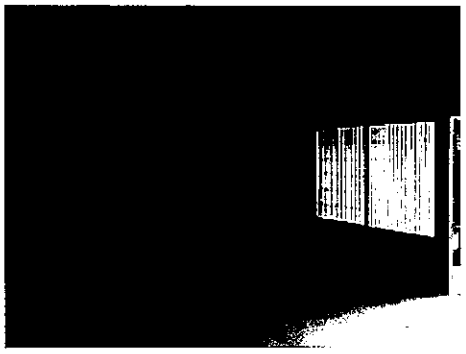
主屋座敷棟２階　不老閣

【指定】鳥取県保護文化財

名　称	所在地
高田酒造(高田家住宅及び醸造施設)	倉吉市

＜指定理由＞　主屋は倉吉の商家の典型例を示し、建築年代が明確であることから県内における近世末期の商家を知る上での指標となる重要な遺構である。また、敷地内の施設は醸造の過程を知る一連の施設が残されており、近世から近代に至る産業施設の様相を知る上で貴重である。

本通り沿いの外観



オクノマ

【指定】鳥取県名勝

名　称	所在地
桑田氏庭園	倉吉市

＜指定理由＞　桑田氏庭園は、近代和風建築の町屋に伴う庭園として良好な状態を保っており、鳥取県中部における明治期の伝統的な近代庭園の特徴を伝える事例として貴重なものである。

桑田氏庭園中庭（西庭）

桑田氏庭園坪庭

【指定】鳥取県名勝

名　称	所在地
高田氏庭園	倉吉市

＜指定理由＞　高田氏庭園は、近世の町屋に伴う中庭のあり方を窺う上で貴重であり、また北側には明治期に茶室と露地を新たに付加して、近代庭園とも見事に一体化した点において独自な存在である。鳥取県における近世から近代における庭園史上で欠くことのできない重要な資料といえる。

高田氏庭園中庭

高田氏庭園北端の露地

【参考：鳥取県の国・県指定文化財の件数（うち今回の指定件数）】

県内	県指定文化財		２４０(6)	国指定文化財			１１５
		保護文化財	１１２(4)		国宝・重要文化財		５４
		考古資料	１８(1)			考古資料	１１
		工芸品	１４(1)			工芸品	5
		建造物	２０(2)			建造物	１６
		名勝	7(2)		名勝		4
		庭園	6(2)			庭園	3

保護文化財				重要文化財		
鳥取市	３９(1)	工芸品	8(1)	１１	工芸品	1
倉吉市	２４(2)	建造物	5(2)	8	建造物	1
米子市	7(1)	考古資料	3(1)	3	考古資料	1
県指定名勝				国指定名勝		
倉吉市	2(2)	庭　園	2(2)	0	庭　園	0

鳥取市・本高１４号墳の保存について

平成２２年８月２０日
文　化　財　課

１　本高１４号墳の概要

昨年度、山陰道建設に伴う発掘調査により、国指定史跡の可能性のある重要な古墳が発見されたため、国土交通省と協議した結果、現地保存が決定した。

（１）規　　模　　墳長：墳長63m（鳥取平野で６番目の規模）
　　後円部：最大径36.5m　前方部：最大幅13.4m、最大長33.6m

（２）形態的特徴　　・前方部が細長く「柄鏡形（えかがみがた）」といわれる古式の特徴をもつ前方後円墳
　　・後円部は２段築成で、墳頂部に円形壇をもつ。
　　・墳丘は大部分を地山削り出しによって造成（盛土は墳頂部等わずか）

（３）時　　期　　古墳時代前期中葉（４世紀前半）

２　本高１４号墳の歴史的価値について

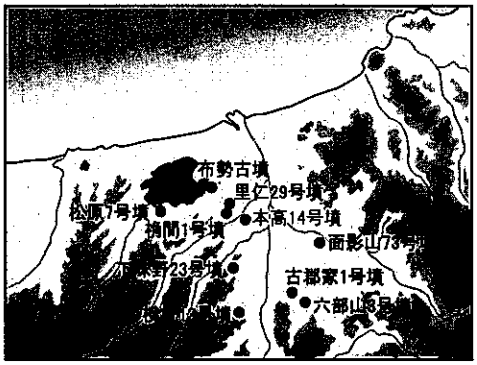
（１）山陰地方最古級の前方後円墳
（２）大型（全長６３ｍ）の前方後円墳
（３）埴輪・葺石を持たないなど、日本海沿岸地域の初期段階の前方後円墳と共通する特徴を有する
（４）県内初の全面調査された大型前方後円墳

３　将来的な計画

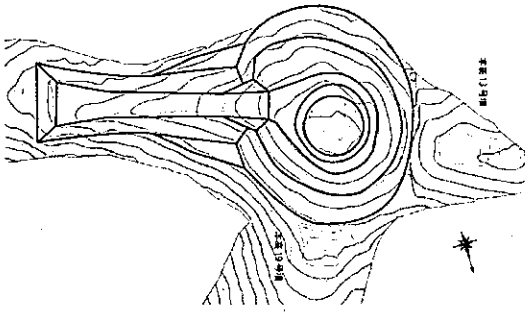
（１）当面は墳丘の養生を行い、保護を図っていく。
（２）今後、山陰道整備の事業進捗と調整しつつ国指定史跡を目指す。
（３）史跡指定後、広く県民に当古墳の重要性を知っていただくための整備・活用を検討していく。

鳥取平野の前方後円墳ベスト10

1	桷間１号墳（92m）
2	古郡家１号墳（90m）
3	里仁29号墳（81m）
4	下味野23号墳（73.5m）
5	横枕13号墳（70m）
6	本高14号墳（63m）・六部山３号墳（63m）
8	布勢古墳（59m・国史跡）
9	松原７号墳（54m）
10	面影山73号墳（51m）



本高１４号墳近景（北西から）



本高１４号墳復元案